

第8回 議会活性化特別委員会要旨

平成27年1月21日
第2委員会室

1. 協議・報告事項

(1) 委員会条例の改正について

・第21条中「教育委員会の委員長」を「教育委員会の教育長」に改める。

●了承 発議者は議長と相談し活性化委員の中から決める。

(2) 今後の議会改革について

①各会派での検討事項

『自由討議』

【藤新会】全協で行っているが更なる有効活用を。

テーマを決めて行っている委員会もある。活用されている認識。

【市民ク】委員会（協議会）では行っているという認識である。

【公明党】全協でやれている部分もあるが、自由討議をしてほしい案件があれば事前に投げかけが必要。ルール作成必要。

【60社中】全協でもっと議論をするべき。

【共産党】議員間の自由討議をどのように拡大するかの議論を今後すすめる。議会基本条例でいう自由討議とは、本会議や委員会においての質疑に対し他の議員が意見を述べること。

四日市では本会議でも試みたいと言っていた。

さしあたっては委員会から行いたい。委員長裁量が問われる。

質疑→答弁→（委員長裁量で）自由討議→討論→採決

●次回までに、会派で検討を

『タウンミーティング』

【藤新会】回数を増やしたい。地域を重視していきたい。

各種団体へ声掛けをして、その団体に地域へ入ってもらいたい。

【市民ク】JCや商工会の青年部など若い人の各種団体とやっていくべき。

地域については回数を増やしていく方向で。

【公明党】女性参加の促進が課題。

広報広聴委員会で視察した伊賀市のように、自治会主体で日時や会場の設定をし、そこへ議会が出向くかたちはどうか。

社会的に認知されている各種団体へピンポイントで声掛けする。

【60社中】関心ある団体へ声掛けしたらどうか。そうすればテーマも必然的に決まってくる。

説明内容は自分で考えて発言したい。

【共産党】T・Mをよくしていくことは議会基本条例の方向でもある。

島田市は議員の総意ですという意見は言わず、議員ごと自由に発言している。

市民からの意見も多様化している、多様な議員の発言があって意見交換することが大事。

先進市議会は圧倒的に回数が多い、回数を増やすべき。

『広報広聴』

- 【藤新会】広報広聴体制を強化していく。フェイスブックの活用を検討したい。
- 【市民ク】四日市市のように議会モニターなど考えていく時期にきている。
フェイスブックを進めたいが広報広聴委員会で意見統一を。
- 【公明党】議会モニターの検討を。産業大学の学生など。
市のフェイスブックはUPするタイミングが遅い。フェイスブックはタイムリーにUPするもの。研究を。
成人式で市議会の資料などを配布し、PRをしたらどうか。
若い人の投票率UPにもつながる。
- 【共産党】議会モニター前向きに検討を。
会津若松市のようにタウンミーティングで市民意見を吸い上げて
政策立案へつなげたい。(住民参加型)
議会だより等での議案の賛否表明について、全ての議案を順番に表示
してほしい。レイアウトの変更を。

『通年議会』

- 【藤新会】意見がわかれている。要検討中。
- 【市民ク】専決処分に対しては通年議会がいい。
意見がわかれている。要検討中。
- 【公明党】議員報酬が関連してくる。執行部との調整も必要。要検討中。
- 【60 社中】時期尚早。
- 【共産党】あらゆる面で合理的である。子育て世代の議員が活動できるだけの議員報酬にしていくためにも導入に向けて本格的に検討を。
議長が招集する局面があるべき。

『常任委員会』

- 【藤新会】常任委員会の更なる活性化を。提言の強化。
現状の所管事務調査報告書作成でかまわない。
- 【市民ク】委員会報告が視察報告だけで終わってしまうのはまずい。各常任委員会はテーマを決めて活動を。研究中。
所管事務調査報告は委員長、委員が自力でつくるべき。
- 【公明党】所管事務調査報告は視察のみではなく、年間テーマについての調査報告も必要である。
- 【60 社中】委員会ごとテーマをもって活発に活動を。
- 【共産党】常任委員会の月例開催は通年議会と絡む。通年議会にすれば自由に開催することができる。
主要事業の進捗度チェックを更に拡大したい。
補正予算は、予算常任委員会を立ち上げて審査したい。
市民意見からテーマを決めて専門的に調査を。

『予算・決算特別委員会』

【藤新会】特別委員会 → 常任委員会化を検討。

現在の４日目の総括のときに自由討議をもっと活発にして提言につなげたい。

予算委員会を全員参加型で行うのはいかがか。全員参加型の委員会で可決すべきと決定してしまうと本会議の形骸化になるのでは。

現在の予算特別委員会に常任委員長が入っていない中で、６月・１１月の審査をやっているという課題も検討しなければならない。

【市民ク】常任委員会化については、１６期が２年経過してから検討してはどうか。

補正予算審査は現状でいいのでは。

【公明党】常任委員会化でいいのでは。

補正予算については検討中。

【共産党】常任委員会化。

補正予算も予算常任委員会で審査を。

『政策立案』

【藤新会】条例提案をしたい案件がある。（地産地消条例）

会派単位でもっと検討。それ以外は特別委員会等を立ち上げる。

【市民ク】亀岡市のように政策の研究会を立ち上げたい。

活性化委員会で提案して条例研究会などを立ち上げては。

【公明党】政策立案のルールづくりを。条例提案などが出てくることは歓迎すべきこと。

【共産党】議会基本条例に何箇所か出てくる。政策立案する動きが出てきたことは歓迎。

藤新会が条例案を用意していることは評価したい。

『費用弁償』

【藤新会】要検討。議員報酬との絡みあり。すぐに廃止という意見にはなっていない。

【市民ク】要検討中。

【公明党】先進市議会でも支給しているところあり。要検討。

【60 社中】現状でいいのでは。

【共産党】廃止。理論的根拠が示せない。

『議場対面方式』

【藤新会】検討中。

【市民ク】スペースがないのでは。スペースの問題をクリアできれば検討の余地あり。

【公明党】物理的な問題、現状でいいのでは。

発言席をセンターに作るのではなく、4番の席か5番の席を活用したらどうか。

【60 社中】現状で。

【共産党】現在も再質以降は自席で対面方式となっている。

今のスペースでも発言席を作ことは可能。発言席必要。

登壇時のお辞儀について検討したらどうか。

『事務局体制』

【藤新会】条例をつくる時は専門職が必要。事務局へ法制担当を設けるのは難しい。法制担当がいることが理想的だが、現状でも仕方ない。

【市民ク】法制担当を付けていただきたい。

【公明党】現状で。

【共産党】議員の資質向上も関係するが、法制担当の位置づけは必要。検討事項。

●上記意見について、各会派で協議いただき次回検討する。

②議員提案による条例等の議会上程までの流れについて

（議会基本条例第6条関連）

- ・ 市民ニーズがあるとか時代の要請があって条例提案をするのだから、提案根拠が必要ではないか。そのために市民ニーズ調査（アンケート）を行なったらいいいのでは。
- ・ 条例案が出た段階で、政策研究会を立ち上げるのはどうか。
- ・ 条例の中身によってケースが変わる。提案されたすべてに研究会（委員会等）を立ち上げるものでもない。目的・問題意識をはっきりと示してほしい。
- ・ 条例案は必要があるから出すのであって、出たものに対して会派代表者会議などでこの案件を受理するかどうかふるいにかけるのでは。通った案件について、研究会を立ち上げるのかどうか。
- ・ 他市の地産地消条例は市民アンケートをして検討している。
- ・ 会派代表者会議等でふるいにかける検討後、アンケートの必要性があればアンケートを行うことでどうか。
- ・ まずは条例案が出ますよということで会派代表者会議で諮り、検討委員会を立ち上げるのか、条例案の関係する常任委員会へかけてもいいし、いろんな方法がある。
- ・ 必ず検討委員会を立ち上げるわけではない。まずは会派代表者会議。
- ・ 問題意識があって出すのだから、委員会等で検討すれば。
- ・ パブコメは必要。基本条例にもある。
- ・ 最終案の調整までは委員会が担当するのか。
- ・ パブコメで出た意見に回答しなければならない。となると担当の委員会が最終案まで関わるのではないか。
- ・ 上越市は、議会全体が合意して条例案を出したケースがある。

会派が出したものはパブコメも会派が対応、議会全体が合意したものは担当委員会で対応。

- ・意見書も全会派が合意して出している。条例も議会として出すのが基本ではないのか。会派が出した条例案も議会の総意として出したい。
- ・基本的には会派が出したものは全体のものにならない。
- ・会派が自立して提案をして全体が賛成する場合も一部が反対する場合もある。ただ、上越市のように議会全体が合意して出すことになれば全体として検討する場合もある。
- ・議会全体として出す場合の流れを固めておきたい。
- ・今回、提案は藤新会がやるけども、議会全体で可決まで持っていけるようにしたいという意図で出しているんだね。
- ・1年とかかけて検討したい。議会が出す条例は重い。一人でも反対がいればやめたほうがいいと思っている。
- ・執行部がどう受け止めるか、執行部との調整がかなり必要。

■発議案上程までの基本的流れ（活性化委員会決定事項）

- ① 議員、会派、委員会等から条例（案）提出
- ② 会派代表者会議で振り分ける。ここで、検討委員会を立ち上げるのか所管の常任委員会へ渡すのか決める。
- ③ 検討する委員会が協議・検討しながら、執行部（関係部課）との調整や総務課法制担当と調整する。
- ④ 全員協議会で（案）を諮り、出た意見を参考に条例案を修正する。

※③④は繰り返し行う

- ⑤ パブリックコメントの実施（約1か月）・・・基本条例第6条第3号
- ⑥ パブリックコメントでの市民意見について協議・検討・回答する。
- ⑦ 最終案を作成。

※③④⑤⑥⑦は検討する委員会が担当

- ⑧ 全員協議会で最終案を諮る。
- ⑨ 議会運営委員会にて上程を決定。
- ⑩ 発議案として議会上程。

③政務活動費明細書並びに領収書のホームページ全部公開について （26年度分から）

- ・領収書を全部公開とのことだが、業者名を公開することはどうか。
- ・日付、金額、用途だけでもいいのでは。明細だけでもいいのでは。
- ・情報公開申請があれば現在でも全て公開している。
- ・ホームページはスピードが遅い、全部をPDFで掲載すると重くないか。

●次回の検討課題とする。

(3) タブレット導入について

【藤新会】ある程度の自己負担もする。

【市民ク】政務活動費と自己負担。

紙の削減を考えると執行部も併せて導入していきたい。

【公明党】ペーパーレスということだけでいくと 22 人でどのくらいなのか。
ある程度執行部も一緒であれば台数も増えれば単価も下がるのでは。
導入については賛成。ある程度の個人負担は必要。

【60 社中】意見が分かれている。

【共産党】27 年度から導入を。

基本的には公費で。ただ、この時点での要求だと自己負担も必要。

【市民ク】ペーパーレスでコスト削減を考えるなら執行部と一緒にやったほうがいい。

セキュリティの問題、外には持ち出さない。

市民からみて、何やってんだと言われないような体制づくり。

【藤新会】外へ持ち出せないならタブレットを持つ意味がない。

【市民ク】段階的にやっていく。まずはセキュリティを一番に考えてそこから始めていけば。

【共産党】タブレット利用をしている他の市議会で、ウイルスについて問題になっていない。

【60 社中】当面ペーパーレスで予算の削減されるわけではないとも話をしてる。

【共産党】ペーパーレスだけを見るとそうになってしまう。逆にペーパーが増えることもある。

情報がいつでもどこでも手近にみれる状況にしながら駆使していく。

【公明党】外で使えるようにするべきと思う。

予算案など早めにもらえるものもあるので最低限の約束事を守るという議会の姿勢も大事になってくる。

最低限執行部のタブレットとソフトが互換性があれば時期を合わせなくてもいい。

【委員長】一人の反対意見があるが、基本的には外へ持ち出せる方式で若干の自己負担をし議会で活用するという方向で。

運用規定についてはどう考えるか。

【藤新会】先進市でもしっかりした規定があった。作るべき。

まずは持って使ってみなければわからない。先に規定を設けずに、あまり厳しい範囲ではなくて規定して使いながら直していけばいいかなと思う。

運用規定については、他市町のもあるので参考にしながら正副委員長で作ってみるということでもいいか。

【委員】了承。

【委員長】月額約 6,000 円。私のイメージでは資料はメールで配信。スケジュールはグーグルのスケジュール管理の共有のものをみるとかで進めていったらどうかと思っているので、月額約 6,000 円として負担割合をどうするかを会派で検討したか。

スタートするにあたって、ある程度の割合を決めておけば、会派に持ち帰って検討しやすいと思う。例えば、政務活動費で 1/3、私用で使うこともあるだろうから自己負担 1/3、議会費で 1/3 など。

【市民ク】先進市は公費が 4/6、自己負担と政務活動費が 1/6 ずつだった。

【事務局】大塚先生の研修会では政務活動費は 1/9 という意見でした。現状と

して負担割合に正解はない。市民に説明がつく割合がいいと思う。

２７年度の当初予算には予算要求をしていない。

公費が入るようだと、２７年度に補正予算対応をする形になるため導入まで時間がかかります。

【共産党】議長に話をして、議長を通して執行部には話しをした方がいい。

【藤新会】議会のためだけにしか使わないとなれば政務活動費の負担割合もかわってくる。

【共産党】今の時期だと予算編成が終わっているので話ができないから、自分らでやりますよというくらいのことが必要。

【委員長】正副委員長で正副議長に相談しながら割合について検討していく。ペーパーレスだけではなく、議員の資質の向上などで導入していくという方向でいきたい。

(4) その他

視察対応（１/２６ 都留市議会、１/２８ 甲斐市議会）について

- ・今回は今までのメンバーで対応するが、今後メンバーを変えていくことも考えながらその他の方も参加をしてほしい。

２．その他